

## 親の離婚が子どもに与える影響

○永井暁子（日本女子大学）

### 問題関心

離婚率が上昇するにつれて、親の離婚が子どもに与える影響についての研究が盛んになった。しかし、親の離婚経験が子どもに長期的な影響をもたらす、あるいは短期的な影響にとどまるなど議論に決着がついていないことが多い。

親の離婚経験が親密な関係への恐れにつながる、あるいは（親の再婚により）早い自立がうながされる、（ひとり親家庭での経験から離婚後の生活に自信をもち）離婚する傾向があるなど、家族形成に関して様々な研究結果がある。

### 本報告の分析課題

本報告では、親の離婚経験と子どもの結婚・離婚との関係を明らかにすることである。とくに、親の階層、親子関係、子どもの持つ資源などから、子どもの家族形成の関係性を明らかにする

### データ

本報告では、第4回全国家族調査（NFRJ18）データを用いる。

（調査地域：全国、調査時期：2019年1月～4月、調査対象：2018年12月31日時点満28～72歳の男女、標本数：5,500人、標本抽出方法：層化2段無作為抽出法、調査方法：訪問留置法+郵送法、回収数：3044（男性1434、女性1610）、回収率：55.3%、）

### 分析結果

親の離婚を経験したもののうち31.1%は、実の父母以外に養父母や継父母ができた経験があり、22.0%は異父母のきょうだいができた経験を持つ。親の離婚後に3割程度はステップファミリーの経験を持つようだ。

①若い世代ほど親の離婚を経験している。1940年代出生コーホートで親の離婚を経験した者は4.3%、1950年代出生コーホートでは3.6%、1960年代出生コーホート6.4%、1970年代出生コーホート9.5%、1980年代以降出生コーホート12.2%と1960年代出生コーホート以降、親の離婚を経験した者の割合は上昇している。

②親の離婚を経験しているものほど、家族形成プロセスが不安定である。親の離婚を経験している者の「恋人と結婚しないまま同棲した」割合は29.7%、親の離婚を経験していない者は11.6%、親の離婚を経験している者の「妊娠をきっかけに結婚を決めた」割合は17.2%、親の離婚を経験していない者は9.7%である。

③親の離婚を経験している者ほど、離婚する傾向がある。親の離婚を経験している者の中で本人も離婚を経験している割合は29.1%、親の離婚を経験していない者では12.5%である。

### さらなる分析

⇒ なぜこのような傾向になるのかを現在分析中である。

### 謝辞

本研究はJSPS 科研費JP17H01006の助成を受けています。NFRJ18は日本家族社会学会・NFRJ18研究会（研究代表：田淵六郎）が企画・実施した調査であり、本研究ではver.2.0データを利用しています。

（キーワード：離婚、子どもへの影響、NFRJ18）